

MEMORE

メモア

1988秋 NO.6 女性エディター&ライター教室実習誌

十年のデフォルマシオン	
'78——'88——'98/細い手足の少女	2
月よりも高い空/懐古趣味	3
D列車で行こう	
虞美人草/お月見の思い出/季節	4
神の前では名を名乗れ/大切なもの	5
なにげない通勤風景/テレビのひとりごと	6
哀感こめてパンダ三話	7
日比谷線3地点 都内の公園観察記	
有栖川宮記念公園/日比谷公園/上野公園	8
管理事務所奮闘記/トイレ/心づかい	9
WALKING 体験ルポ・山手線一周	10
メタルのきもち 本格組とおちゃらけ組	11
主婦が会社をつくる時やめる時	12
オイヤウエー! トンガ人主婦の見た日本女性	13
女の人生ってこんなもん! 双六	14
旅は道連れ……というけれど	
個人旅行 vs 団体旅行/エッセイ 途中下車	16
徹底比較~萩・津和野 5万円をどう使う?	17
Let's トラベラーチェック あなたはどのタイプ?	19
編集後記 20	講師のことば 21

十年のデフォルマシオン

'78 — 88 — '98

佐藤 祐美子

「十年間、会わずにいたね」と言いながら、あいつはペギー・リーのカセットテープを指でなぞっている。

「忙しかったのね。お互い」

よく晴れた秋の空の下。公園の木々も、ちらほら赤みがさし始めたようだ。大きく深呼吸してみる。体の中が、そうじされたように気持ちいい。こんなにも、季節を感じるなんて、何年ぶりだろう。十年もの間、仕事に追いまわされ、何か大切なことを忘れていたような気にさせる。

公園のベンチに座り、何時間経つだろう。私たちは若かった頃の話に夢中になった。昨晚、カセットテープを整理していたら、あいつに借りたままのテープが、埃だらけで出てきたのである。妙に懐しく思え、十年ぶりにダイヤルをまわした。

二年付き合ひ、十八歳の時別れ、そして十年ぶりの再会。別れた原因？ ほんのささいなことがきっかけで、ケンカ別れとなってし

まったのだ。若さゆえに、二人とも意地を張りすぎたままだった。月日の流れが心を和らげ、こうしてあの頃の話、笑みを浮かべながら語っている。こんな日が来るとは、十年前の私たちには知るよしもなかっただろう。

——ベッドの灯りを消し、十年前の日記を閉じた女は、かたわらにいる亭主の顔を見た。二十年前の別れから、私たちの恋は始まったのだ、と三十八回目の誕生日を迎えた女は、ベッドに幸せそうな寝顔を飾った。

細い手足の少女

佐久間 明美

十年前、私は小学校の五年生でした。今とほとんど変わらない背丈で、年中まっくろに日焼けしていました。走るのが大好きで、運動部の早朝や放課後の練習はとも疲れたけれど、いやになったりはしませんでした。

山の中の小さな学校は絵本の中にあるように素敵でした。二階建ての木造校舎。赤い瓦屋根。くすんだ白いペンキでぬられた校舎。それらに映える青空に吸いこまれそうになる

くらい、重力を忘れるくらいよく走っていました。細くてまっくろな手足は気持ちよく思いのままに動きました。

秋の終わり——山の緑がいつのまにか黄ばんで、はらはらと散りはじめた頃でした。突然、自分の体の変調を感じました。目覚めがはつきりせず、何とはなしに熱っぽく、だるい感じがします。前もって聞いていた大人への変化が起ってしまったのでした。驚きや悲しみともつかない、あきらめに似た感情でした。決してうれしくはありません。家ではお赤飯をたいて祝ってくれましたが、鈍く痛むお腹がしゃくにさわりました。

私はよく食べてよく運動する子だったのにいつのまにか運動分より食べる分が上まわってしまっていて、だんだんぼちゃぼちゃと体が丸みを帯びてきました。走ったら元どおりになるかしら、とたくさん走りました。

でも体は私を走りにくくするかのようになり、胸には2つの膨らみ、腰のまわりにもたっぶりの重りをつけはじめたのです。私は校庭を走ることがいやになってきました。赤い屋根、青い空、走る私はどこにも見えなくなってしまうのです。いつまでも走っていたかった私は、体の変化に悲しくなりました。

十年たった今、赤い屋根、白い窓はもうありません。けれども、走る私はあきらめきれずに、私の心の中で走り回っているのです。

月よりも高い空

吉田 真澄

大きく吸い込んだ煙を、彼はゆっくりりと吐きます。その白く長い指先は、煙草を揉み消している。そして言った。「悔しかったら金持ちになってみる。お前も有名になってみるよ」と。彼は言葉どおり、マスコミがとりあげる相手と結婚した。そのカメラは、眼鏡の奥に狡さを光らせ微笑む彼を写していた。

愛されていなかったのか、彼の玉の輿願望に負けたのか。とにかく私は言葉の氷を胸に押しつけられ、見事に振られた。彼と私の二年間、彼と彼女の一年間に追い越されていったのだ。気付かぬうちに。

あの頃の私は言動、容姿、すべてにおいて自信がなかった。そのため右を向けと言われれば、黙って右を向いているような女であった。『柳に風』のようなもので、張り合いない女だったのだろう。まったく手酷い打撃の恋の結末だった。

しかし、私はへこたれない。へこたれてなるものか。人生の至る所には、自ら選択できる分岐点がある。嘆いているだけでは、決して見えないほど微かに。運命は自分で変えられるのだ。へようし！ いつか著名人になってやる。泣き疲れた目で、月よりも高い空を見上げ、私は星に誓った。

男を見返すためのよこしまな道を、まるで

心の膿を出すように文章で綴った。皮肉なもので、その一編が直木賞候補となり、幸運にも賞をいただいた。あれから十年。少しは世間に名を知られるようになった。代表作といわれるものも、いくつもある。書くことにより自分を見つめ、新しい私を発見でき、世界を広げることができた。

時折感じる独り身の寂しさを除けば、何の不自由もない。自分に自信がもてた今が、私の適齢期かもしれない。そろそろ、仕事を選んで引き受けてみようかしら……と思ったりする。選考会を明日に控え、山積みの資料の中、四五歳の私はきっと、そう言っている。

懐古趣味

今泉 直子

渋谷のベンチに座っています。たった今、十年来の友達と別れてきたばかり。人の海をさまよったあげくのことです。

伏し目がちなわたしの注意を引くのは、なぜか渋谷には不似合いな人々。やせて力のない女の子が坂を登っていきました。スカートからのぞく足は、触れたら壊れそうな小鳥の足。一瞬目を逸らし、もう一度その足に目をやると、鮮やかな街の色に包まれて、足だけが灰色のオブジェになっている……。誰かが耳もとでつぶやきます。「骨だって、昔は歩い

ていたこともあった……」

次に視たのは、ベルボトムの子ンズをはいた人。重い裾は不自由な感じがしますが、威風堂々と突き進む姿に目を凝らすと、郷愁のようなものが沸き上がりました。つい先日若かったおばのベルボトム姿を、ぶ厚いアルバムの中に見つけ、ひどく笑いこぼれたことがありました。体に馴染みすぎたとっくりセーターが、目に焼きついたままです。渋谷のベルボトムは大股歩きだったので、たちまち米粒大になって、消えました。

ああ、渋谷はなんて辛い街でしょうね！ 愚かな感傷には、誰も振り向いてくれやしないうです。なにせ、想い出をすぐに凍らせてしまいうくらいだから……。やがて、わたしも友達のことを忘れるのでしょうか。渋谷で別れたからなのか、わたしはもう、次の友達を探しにいくとしていようです。

この白い滑らかなベンチはいつからここに あるのだろう、と考えていると、いつの間にか隣の人はいなくなっていました。疲れていた体を、空いたベンチに横たえてみました。頬に温みがほんのり伝わるようでした。向かいのベンチの女の人たちが、くすくす笑っています。少し恥ずかしくなって、はっと飛び起きました。気づくと、駅めがけて、スキップで駆け出していました。夕日は、なかなか沈まないような気がしました。

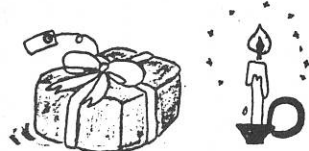
D列車で行こう

虞美人草

星野俊江

ねえ、知ってる？
虞美人草って
ヒナゲシのことを言うのよ
幸という少女のような名の男の子が
いつも
得意気に言っていた
夢が、花が、好きだったのね

でも幸、いっちゃった
天国に夢を求めて……
粉雪の舞う
クリスマス・イブだった



ねえ、知ってる？
虞美人草って
薄幸の美人のことを言うのよ
でも幸、神さまに女の子と間違えられて
召されちゃったのかな？
忘れられないプレゼントを
私に残して……

神の前では名を名乗れ

吉田真澄

あなたは神を信じますか（宗教団体の勧誘ではありませんのでご安心を）。いつもは忘れていても、とても苦しい時には手を合わせませんか。そんな時にはぜひ、祈りとともに住所、氏名を名乗って下さい。これは、いわゆる一種の定期券のようなものです。とくに正月は、これが一番大事。なにしろ三ヶ日には、ほとんどの国民の祈りが集中します。初詣に行く人、テレビの前で除夜の鐘を聞く人、寝正月を決め込む人……など、その背景は違っても、手を合わせなくとも、心に思ったりするわけですから、ただ祈るだけでは誰の願いごとかわからなくなります。いくら神様とはいえ、この時ばかりは聞くだけで精いっぱい。顔を見る余裕もないと思うのです。

そこで、名乗りの定期券を呈示してから願いごとをすると、神様の仕事もやりやすくなるはず。郵便物だって、宛名の確かなものは速く届くでしょ、願いごとと同じこと。

それとあと一つ。名乗りの定期券に、年齢を付け加えておくとうべ便利です。願いごとは、年々変わったりしますよね。毎年同じ願いごとをする人は、少ないはず。古い願いごとを、いつまでも神様のファイルに入れておくと、新しい願いごととはどんどん先に延ばさ

お月見の思い出

佐久間明美

小さい頃は、お月見が待ち遠しかった。その夜は子供たちだけ「どろぼう」になることが許されていた。

「お月見にきましたあ」と声をかけては、縁側にお供えしてある果物やお菓子を頂いていくのである。栗や梨やお団子は自分の家にもあるので珍しいお菓子に人気があった。早い者勝ちの世界なので、しばしば取り合いも起る。そんな時は、その家の人が気を利かせて、「一人一つずつよ」と声をかけたり、お菓子を時間をおいて小出しにしたりする。

ある年、少し遠出しようと、村はずれまでいった。すすきの穂とお団子が電気で影をつくっていた。「こんばんは」と、声をかけ、手を伸ばすと、あるある、お菓子がどっさり。家の中から人が出てきたので帰ろうとしたら「おあがんなさい。おばあちゃんとか、毎年お菓子買って待ってるのに、あんまりお月見に来ないのよ、ちょっと寄ってって」私たちがにっこりしておきました。

季節

佐藤久美

「私は冬という季節が好きである。今年も独特のおいを漂わせて冬はやってきた。（中略）十年後、冬はどんな色をしてやってくるだろう。あるいは冬を嫌いになっているかもしれない」

十年近く前、学生時代に文集に寄せた私の文章である。当時の私にとって、冬は凍てつくものがキラリと光る純粋な季節であり、一方夏はあの圧倒的な太陽の輝きが自分を押しつぶしてくる……、そんな風に感じられたからである。

今はどうか——冬も夏も、どちらも好きである。泳ぐことを趣味に加えてから、暑さの中に汗をかく快感を覚えた。夏の帝王に支配されるのもまたよし、と思えるようになってきた。

太陽の夏だけでなく、春夏秋冬、それぞれの季節がおのおのの趣をもって訪れ、私たちを包みこみ、そして流れている、そうは思えないだろうか。人間である私たちひとりびとりにも、いろいろな人間の集まりにも、すべてに、である。その流れに上手に乗ることができれば、十年でも二十年でもずっと、心楽しく優しく生きていられるのではないかと、そんな気がする。

れてしまいます。ですから、「何歳と何歳の時の願いごとは削除して下さい」と言えるようにしておくのです。その方が、神様の手間も省けますし、自分のためにもなるのです。神様が、いつ頃願いを叶えてくれるのか、定かではありません。なにしろ、一年分の願いごとを処理し終える前に、次の年が来る。そんなシックエンスなのです。でも、その日のためには、名乗りの定期券を忘れてはいけません。回数券では、効果がありませんよ。

大切なもの

三浦由佳子



今、過去へもどることができればなら、私は高校生になりたい。私の通っていた学校は普通校で高校一年の頃から、それほど強くないが、私の周囲には受験色が漂っていた。そんな中で、私はきわめて態度が悪く、むしろ

俗にいう「落ちこぼれ」だった。勉強がイヤだったわけではない。ただ、乗り気がしなかっただけ……などと言うと生意気だが、これが、私の反抗期だった気がする。

とにかく、何もする気のない日々だった。バスケット部に所属していたので、授業のあとの二時間は、毎日汗を流していた。が、帰宅してからはいけない。それこそ、「たまたま」と帰ったら、あとは夕食をして、ぼーっとテレビを見て、そして、虚脱感におそわれて眠る。家族との会話などはもちろんない。一度、母から言われたことがある。「あんたは、ただいま、おなかすいた、お金ちょうだい、としか言わないのね」と。

こんな日々を繰り返していると、成績が下がるのもあたりまえだ。学年を進むにつれ、周りの皆の目の色が変わってくる。どこそこの大学に行きたい、という声も聞かれはじめた。私という、より一層、逃避傾向が強まり、現実からのがれるため、眠ってばかりいた。そのくせ、プライドは一人前にあり、自分の理想と現実のギャップを埋めることができず、自分のからに閉じ込もっていた。

今、思い起こしてみても、情けなくなってしまう。自分の感性を磨き、育てるのに一番よい時期を自分で殺してしまったことを後悔している。この歳になって、やっと時間の大切さを思い知らされた私である。

なにげない 通勤風景

齊藤 富美代

☆ 朝の通勤電車で。いまどきのOLが2人。「私、近頃運動不足でさあ」「そう、私も。階段昇るにも息切れしちゃってねえ」「なにか運動しなくっちゃ」といって、電車がつくなり2つ隣のホームへ競うように猛ダッシュしていく。その姿を見ると、とても運動不足には……。走る格好に、恥も外聞もありません。

☆ ホーム一杯に人が次の電車を待っている。駅員が放送で呼びかけるようにきちんと3列に並んでいた。ドアが開くと同時にだれか込む。途中で割り込んでくる者を、順序よく並んでいた後ろの人が大声で注意した。「ズールコミキンシー、ヨーストクレー」。みんな唾然としていたが、緊迫したムードの中に笑いがもれ、和やかな雰囲気になった。

☆ 注意するときはケンカにならぬように……。帰りの電車で。次の駅の放送があった。今まで椅子に腰掛けて目を通していた本をしまい、身なりを整えていると、近くに立つサラリーマン風の人が荷物をもって座る用意をしていた。扉が開いたが私は降りなかった。そ

の人はとても残念そうに荷物をもとあった場所へ戻した。寝たふりをして上目遣いに様子を見ている楽しみは、もうやめられない。

☆ ザッザッザッ。よくまあこんなにも足並みが揃うもんだ。地下通路だけにやけに響きわたる。自分だけ崩しても、いつの間にか同調している。困ったもんだ。そこでこの間駆け足進行曲のテープをかけてみた。皆、腰に手を当てて小走りしていた。なんて日本人なのだろう。お互いにごくろうさま。

テレビのひとりごと

加藤 宮子

☆ 今やテレビは衛星放送時代。番組は生活の一部となり、お茶の間にながらにして、世界のすみずみで今起こりつつある出来事を、同時に知ることができる。

オリンピックの実況放送も、競技の場から直接地球規模で送られてくる。この一瞬にかけた選手たちの生の息づかいが、画面いっぱいにはじける。二十一世紀には、月に立つニュースキャスターが実現しても不思議ではなくなるだろう。

最近、友人からこんな話を聞いた。「父に先立たれた母は、五十年もの生活の歴史のみこんだ家で、たった一人、誰と話を交わすでもなく、テレビを相手に一日を過ごす。画

面の中のキャスターを相手に「おはよう」と挨拶をし、結構楽しくやっているのよ。同じニュースを何度も聞くので、外にいる私よりも世の中の動きを知っている……」。

☆ 高齢化社会になって、このような視聴者が増えてきている。とすると、テレビは、情報や娯楽を提供する他に、コミュニケーションの相手としての役割もつとめてくれることになる。毎朝同じ時刻に語りかけてくれるニュースキャスターの存在や、過去の体験と重なるような番組を見ることは、社会生活への参加になるとしてもよいだろう。肉親から精神的に見放された高齢者や、都会の孤独を肌で感じている人々にとって、テレビ番組は、本来の目的や使命とは違った意味を持ってきているのではなからうか。

☆ こんな視聴者の心をとらえる番組を、送りっ放しではない番組を、誰もが望んでいるだろう。視聴者の目でリポートし、自分の言葉で話してくれるニュースキャスターの登場を、誰もが願っているだろう。見る人が何を求め何を喜ぶかを考えて作られた番組は、多くの人の支持を得るに違いない。

深夜、誰もいないお茶の間で、テレビはこんなことを呟いた。「リモコンだからって、そんなにカチャカチャやらないで。送った人の情熱を私はここに伝えます。テレビ見上手聞き上手。私は二人の心結びます」と。

哀感こめて、パンダ三話

今泉 直子

☆ その一 実は、パンダは黒いパンツがはけないのであった。パンツが黒ければ、下半身はすべて黒で覆われ、まるで黒タイツをはいているようになってしまう。

もし黒子パンダに変身したければ、黒パンツに加えて、黒いノースリーブシャツを身につけよ。

パンダはつぶやく。

「どうせ変身するなら、文学的にしたいものだ。ぜひとも、赤いちゃんちゃんことふんどしを用意してほしい。それを着て、スタンダール氏に会いたいのだ」

そこで、誰かが異議を唱えた。

「やめなさい、バカにされるだけです。わたしは、黄色の服がいいと思います。君は確か、野球選手になりたいと言っていたね。それを着て、ぜひ大阪に行きたまえ」

パンダはさんざん悩んだあげく、白い木綿のワンピースにした。アドバイスに燃えた周りの人はがっかりしたが、これがパンダのボディを最もすっきり見せることは、分別のある人なら誰でも知っている。

その二

パンダとトカゲが会うことは滅多にない。しかし、今日はある湖のほとりで偶然出くわした。こげ茶色のトカゲが口火を切った。

「パンダ君、君の二色の毛並みときたら、まことに見事なものだね。まったく美しく造られている。それにひきかえ、僕の色目はまばらで、ひいき目にもきれいとは言えない。新しい絵の具を使って塗るかえなくては、と思



っているところなんだ」

パンダは怒って、反論する。

「わたしには時間がないのをわかりかい？ 近頃、くま笹はめっきり減ってきているし、おいしい水も飲めやしない。我々は美しい動物だと言われるかわりに、大変なキケンを負っているのだ」

「何だ、そのキケンとは？」

パンダは一瞬の沈黙のあと、こう続けた。

「溝の中にどれだけ合成洗剤が混じっていても、君たちは力強く生きられるようだね。僕だったら、たちまち弱ってのたれ死んでしまう。いつもびくびくしどうしさ」

☆ その二 そう言い終わらないうちに、パンダはもそもそと竹やぶにわけ入り、「キャン」とひと声あげて、煙のように消えた。

その三

「おやおや、寒いのかい？」

真夏の夜だというのに、パンダの右肩に生ぬるい、青白い手を乗せてつぶやく人がいる。

「寒ければ、この毛布をお貸しますよ、うるわしいパンダさん」

何だ……。この人は何者だ。

「暖い格好をしないと、お風邪を召しますよ。もしよかったら、熱いミネストローネでもお作りしますよ。わたしの得意料理なんです。あなたのようなパンダさんにお作りできるのは、大変光栄なことですね」

☆ パンダは、にわかに身の毛のよだつのを覚えた。この人は普通の人間とは明らかに違う。並み外れた皮膚感覚の持ち主のようだ。絶対に負けたくない、豊かな毛並みを持つ者として。体温調節にかけては、誰にもひけをとらないわたしなのに……。強力なライバルの出現だ」

パンダはその晩、焦りと苛立ちのために、容易に寝つけなかったという。

日比谷線3地点比較 都内の公園観察記

日比谷線沿線の三つの公園、日比谷公園と有栖川公園・上野公園は遠いようでいて、なんと初乗り料金で結ばれていた。この三つを歩いてみたら、東京の小文化が見えてきた。

有栖川宮記念公園

池のほとりで釣りに熱中する親子連れ、両親に手をひかれた金髪の少女、本を小脇に抱えた急ぎ足の高校生、そんな光景が足を踏み入れるとまず目に入る。有栖川公園は周辺に多くの大使館をもつ、国際色豊かな港区麻布五丁目に位置している。敷地内に都立中央図書館を持つことでも知られる。その土地柄を利用者層が端的に表わしている。地元住民のためのストレス解消・家族団楽・国際交流の場となってほしい、というのが管理事務所の願いだ。園内のベンチ・ゴミ箱は木目調で統一され、こんもりと茂った木々の間には、溪流にも似た小川が流れている。裸足で水につきり、小船を流して遊ぶ幼い男の子の姿に東京のオアシスを感じる。小川には、メダカを見つけることもできる。橋はすべてデザイン

日比谷公園

銀座近くのオフィス街ゆえか、おしゃれなアベックが多い。有楽門と桜門の中間にある日比谷茶廊のカフェテラスに、ヨーロッパ的な印象を受ける。資料館はバンガロー風で、周囲の木々にマッチしている。中は静かで、椅子があるので都内の公園の概要を知りながら休息できる。噴水周辺も花壇も乱れなく整備されている。ゴミが全くと言っていい程見当たらないのは、赤く塗ったトラクターに荷車をつけて、おじさんが次々に集めてくれるからだ。美しく整備されているが、あくまでも利用者はお客様、そんな印象を受けた。

上野公園

上野駅に降りた途端に感じる人ごみ特有の臭気は、公園に入ってもなくなりません。ゴミの多さ、「盗難・スリに注意」「たかりに注

気になる公園の必需品を四

つ並べて比べてみたら、意外な共通点が見えてきた。

トイレ



三公園ともに清潔で予想していた落書も見当たらなかった。最近では苦情が多いためにすぐ消しているという。鏡はなく、ペーパーも置いていない。とくに換気扇はないが、壁と天井に空間をもたせて設計上に工夫がある。そのせいか、ニオイはほとんど気にならない。表示は、文字ではなく記号で示されていた。性別の表示は色で分けられ、紳士用は黒か青、婦人用は赤で、形は微妙な違いが見られる。手洗いの水道はどれも一つしかなかった。

ゴミ



三公園ともにベンチの横や植込みのコーナーなどにゴミ箱が設置してある。有栖川公園には売店がないため、内容物は釣り人が持ち込むビールやジュースの空き缶が目立った。一番ゴミが氾濫していたのは上野公園である。日比谷は少量でまめに処理が行われている。

心づかい

三公園とも、通路の段差にスロープをつけ手すりを置く配慮や、身障者用トイレの設置などゆき届いた心づかいが見られた。日比谷や上野には身障者用コース案内図の表示があり、利用者への便宜をはかっている。

管理事務所奮闘記

上野公園にはさまざまな人が訪れる。中でも目を引いたのは浮浪者たちの多さである。土地柄と山谷が近いという理由から彼らの憩いの場となっている。管理事務所長さんの話によると、公園の管理のなかで一番手を焼いているのが浮浪者対策だそうだ。彼らは公園を住みかにしようとする。来園者とトラブルを起こす。風紀上・衛生上かなり問題が起こるのである。お気づきだろうか。トイレには庇がない。住居を作らせないためだ。事務所の窓にはシャッターが降ろされる。いやがらせ対策だ。常時120人はいるという彼らを年4回にわたり、「街頭相談」として取り締まる。奮闘は今日も続くのだ。



私たちの満足度

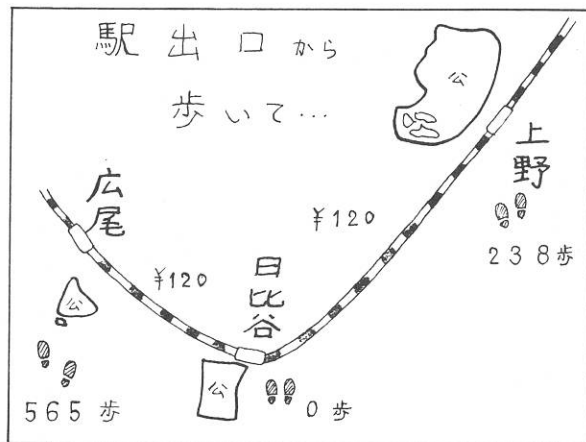
項目	公園	有栖川	日比谷	上野
グリーン度		95%	70%	80%
クリーン度		85%	90%	40%
ロマンチック度		80%	90%	60%
レジャー度		80%	50%	95%



グリーンアドベンチャー

青少年交友協会が自然と親しみ、植物への関心を高めることを目的として企画している植物名オリエンテーリングである。日比谷公園では地図入りのグリーンアドベンチャーカードがあり、公園を散策しながら植物名当てクイズが楽しめる。上野公園では、樹木の表示がクイズになっていて、その場で楽しめる工夫がしてある。

有栖川公園では管理事務所のおじさんが、事務所裏の小屋に案内してくれた。ここでは、ホタルの卵や幼虫やエサが大切に育てられた。ホタルのタベ、飼育は八年前、失われた自然を取り戻すために始められた。毎年夏、おじさんたちの汗と涙の結晶は美しい光を放って舞う。



WALKING 体験ルポ 山手線一周

東京人は歩

車を持つにはお金がかかる。電車やバスは待ち時間のロスが許せない。自転車もいいけど、どこに停めるか考えてしまう。

車は多いし道がゴチャゴチャ。けれど新しい、発見なくちゃいけない場所があふれる、ワクワクすることが待ってる東京。そんな東京を飛びまわるには④。WALKING

がいちばん

EXW

そーいえば最近、通勤電車にもスポーツシューズが多い。いまごろ思ってた遅い。ちまたではEXWⅡエクササイズウォーキングがブームを呼ぼうとしているのだ。

トライしたい

かんたん、かんたん。歩くだけのことは変わりなし。少し歩幅を、少し速度を広く早くする。あとは背すじをのびして、手を元氣よく振って歩きます。これで、地面さえあればどんな遠くへも行けてしまう!!

最近EXW講習会が、都心の公園で開かれているみたいなので、興味のある方は参加してみたら? 一足おさきの私は、8月20・21日に行われた山手線一周ウォークに参加してきました。

体験ルポ・星と歩こう、ナイトウォーク

土曜の夕方から日曜の早朝にかけ、山手線沿い44キロを歩くこのイベントは今年で24回目。私(OL)と友人(家事手伝い)はその日、代々木公園から千人の参加者とともに、完歩めざして歩きはじめたのです。

スタート 夕方6時30分 (以下、会話)

「このペースの早さは何?」

「明日の朝には完歩してるなんて信じられないね」

CP(チェックポイント) 7時50分

「できるだけ内側歩こう」

「えっ、ここ目白? 池袋だと思ってたよー」

CP 8時50分

「(夏休みの自由研究で歩いてる小学生と) ガンバロ」

「前のカプルの余裕はナニ、手なんてつないじゃって」

「私たちビリじゃないよね」

CP 9時45分

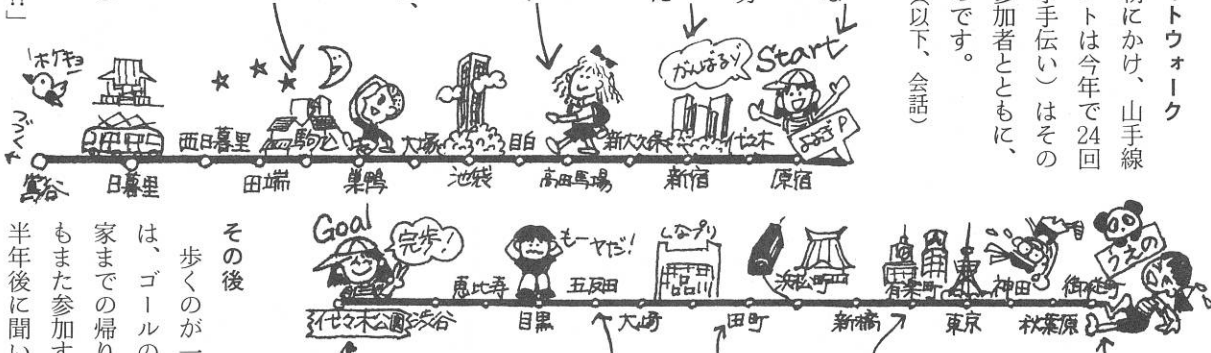
「いま何が食べたい?」

「おそうめんが食べたい!」

「何でこんなこと始めたの」

「家の親なんて(完歩したら) お金ももらえるの、だって」

「上野公園だ! うれしい!!」



大休憩 11時10分

2万7236歩

「くつぬいで裸足になった方が疲れがとれるよ」

「休んだ後の最初の一步がいちばんツライ」

CP 1時15分

「:(ただ黙々と歩く):」

「(すれ違う人との) あいさつがオハヨウになったね」

CP 2時13分

「ここまで来て完歩しなかったら女がすたる」

CP 3時23分

「戸人生楽ありゃ苦もあるさくじけりゃ誰かが先にいく月(水戸黄門のテーマ)」

「次に休む時はゴールだー」

「誰? こんな所に歩道橋つくったのは」

ゴール 4時50分

5万6775歩 完歩



街で、黒革のベストにスリムパンツといういでたの子を見かけると、無意識に冷たい視線を投げかけているあなた! これは、ヘビメタの「本格的ファン」2人と、自ら「おちゃらけファン」と称する2人の、違いと共通点についてのレポートである。この記事であなたの冷視線の中に、認容の一光を投げけたい。

——違いその1・LAまで行っちゃった——

何が違うか。まずは夏休みの過ごし方から。おちゃらけ組は、家でひたすらレコードを聴きまくるとのこと。ところが本格組、「LAまでコンサートに行ったんだ」ときた。Jちゃん、会社を辞めて3カ月も行ってきたというから半端じゃない。安いモーターに泊まりながら、ライブハウス、コンサート通いの毎日。時には、バックステージをのぞいたり、メンバーと話もできたりと、ご満足の様子。ついでだが、本格組は英語が話せちゃう。「コミュニケーションの手段の一つだよ」というわけで、今も英会話教室にて勉強中という熱心さ。

——違いその2・友だち広げない理由——

「どんな小さな記事も見逃さない。人よりにかに多く情報持ってるかが勝負だから」エグゼクティブのような意見を述べるJちゃん。

メタルの きもち



22才・A型

22才・A型

「ただと悲しいかな、「この情報だけを目あてに友達になろうって奴が多いから」。友達を極力増やさないようにしている本格組。対するおちゃらけ組は、「浸っちゃおうと怖い世界だから、メタルの友達はこれ以上必要」

Jちゃん・アルバイト

Pちゃん・会社員



24才・A型

22才・B型

「共通点その1・会社に不満ゼロ」

「共通点その2・友だち広げない理由」

「よ」と毅然と言われると、エライ! としか言いようない。会社で異端児扱いされてはいまいかという心配をよそに、そこは現代っ子、世渡り上手。「会社はお金を稼ぐ所だから、構わないでいてくれればそれでいい」というのが代表的意見。Pちゃんは「私、会社では、お酒飲めません。門限8時ですってことになつてるの」と言っていて、一気にビールを飲みました。この徹底ぶりが、ちょっと気持ちいい。

——共通点その2・彼がいないの——

4人揃って、生まれてこの方、彼氏がいないというから驚いた。普通の人は視界に入っていないそう。男の人は、絶対に彼女たちを視界に入れてると確信できるほど、皆きれいなのに。恋する人は、海の向こうの人というわけだ。Jちゃんいわく、「オムレット食べる時、ケチャップでバンドの名前書いてやうくらい好きなんです」かわいい!

形は違うが、皆ヘビメタあつての生活を送っている。世間から冷視線投げられても、好きなものが一貫している彼女たちに声援を送ってあげたくなった。

「好きになりすぎちゃって、この先どうなるのかなって不安なの」というJちゃんの意見が印象的。コンサートで、親子で盛りあがる彼女たちの未来を想像して、ちょっと滑稽だけど、ステキだろうなあと考えた。

紀子
美容師
田本塚
福吉手

主婦が会社をつくる時やめる時

十数年前、八歳、四歳、一歳の幼児をかかえ、通信添削業を始めることとなったAさん。育児戦争まっさい中の主婦が会社経営にアタックして十年、はたして子育てと事業はうまく両立したのだろうか。

◆ ◆ ◆

— 仕事をしたいきさつは？
夫の友人が、小中学生を対象とした会員に週に一度プリントを配付・回収し添削してお返しする通信添削業を始めることになり、「一緒にやってみないか」との話があったのですが、夫が会社を辞めるのには、先行不安感もあり、私が代理することになったのです。

— 仕事はどのように運びましたか？

軌道にのるまでの数年間は、本当に試行錯誤の連続でしたが、五年目で住宅兼事務所を建てかえることができました。

最盛期には会員千三百余名、それを支える従業員は、事務員・集配者・添削者あわせて六十余名。月商五百万円余を管理運営した時期もありますが、業績の安定とはほんの数年ぐらいいなもので、常に数字との闘いでした。四年目ぐらいいからすべて主婦でローテーションを組み、仕事はスムーズにいったのですが、人事面は一番神経の使うところでした。でもすばらしい人に出会

うことも多く、また自分で企画したものが実現していく充実感というのは、何ごとにも代えがたいものでした。

— 主婦が仕事していく上で困ったことは？

自宅内に事務所があり、時間の許す限り子どもと接するようにしていたのですが、子どもに「心はいつも事務所にいっているネ」といわれハッとしたことがあります。家事などはよく手伝うようになりよかったです。仕事と育児の両立は、私の心の中で最後までふっきることができませんでした。また対外的には、銀行との取引き・公的文書の責任者名など、女性の名前では信用にかかわることがあり、表向きの責任者は最後まで主人でした。



— 十年目をむかえ、どうして辞めることになったのですか？

どのような仕事であれ、全責任をもって事を運ぶというのは大変なストレスを伴うものなんです。事業の拡大と衰退に伴う重責に精神的に限界に達したことで、また子ども達にも手がからなくなり、「もう自由になりたい!!」との思いも強くなりました。そして私の

どこかに、生活費は主人がもってきてくれるとの甘い考えもあったと思いますね。

— 仕事をしたことにより、ご自分がどう変わったと思われませんか？

物事の判断に、多方面から検討する訓練ができたことかしら？ また経済的に自立できたことはこれからの生き方に大きな意味をもってくると思います。

— 今どのような毎日をおくっていますか？

読書や旅行・趣味的な習いごとを追われていますが、家事をするにも、友人との楽しいおしゃべりも、ゆったりとした時間のもてるぜいたくというものもあるのです。

— これから先の計画は？

十年間物心両面から支えてくれた主人と、過疎化が進む農山村の人々の暮しを訪ね歩く計画がありますので、その準備をすすめています。

◆ ◆ ◆
三人の子どもを抱え、仕事と家事を両立させてきたAさんの苦労は想像するに余りある。晩婚化が進みシングルライフを満喫している私たち。Aさんの体験が自分の身の上になりかかってきた時、私は、そしてあなたは、どういう選択をするだろうか。

オイヤウエー!

— トンガ人主婦の見た日本女性 —

工藤晃子・山口美佳

トンガ王国をご存知ですか。ポリネシアに浮かぶ小さな国です。そんな南の島で育ったトンガ人女性に、日本の女性について語っていただきました。お二人とも、日本人と結婚し、日本で主婦をしていらっしゃいます。

— 日本の女性の考え方で、おかしいな、と思ったことは？

テルシラ 私はないのよ。お友達みんないい人だから。ただ、日本の女の人って本当は負けそうなんだけど、「よし、がんばろう!」っていうところが……。

マイル あっ、わかった! 私の周りを見ると、独身の時は好きにやってみてね、結婚するともう、旦那さんのヘルパーみたい。すごいがまんしてる。うちの主人、トンガのことも少し分かってる。だからわがまません。

日本の女の人は、はっきり強く言えないのね。私はヘルパーじゃない。私はワイフなのよ。テルシラ 同じ、ウフフ……。

— 日本の母親はいかがですか。
マイル 子供をすごく甘やかしてる。それで

いきなり「ダメ!」って言うから、子供はすごいショックを受けるのよ。日本の言葉に「親の背中を見て」っていうのがあるでしょ。その言葉と育て方が全然違う。親はほとんど甘やかすでしょう。それでも親の背中かなあ、違うなあ、と思う。

— 受験戦争についてはどう思いますか。

テルシラ トンガも同じ。
マイル もうただ「勉強しなさい!」ってお父さん。あの顔、あの大きい声だけが頭に入ってるのね。先生が一生懸命教えても、それは入んないのよ。

テルシラ こっちから入って、あっちへ抜けてっちゃう(耳を指さす)……。 (笑)

— でも、トンガはのんびりとした国だと聞きますが……。

マイル あんまりのんびりは何もないの。楽しくないの。ただその世界だけでしょう。働くのは、たくさんいいものを見つかる。だから私、働くは大好き。日本の忙しいは大好きなの。

テルシラ 私はいつものんびりしてるから。マイル トンガののんびり、日本に持って来



市川テルシラさん
29歳。在日10年。横浜市在住。ご主人は横濱市在住。お子さん何と屋敷さん(7歳)と美幸さん(2歳)。ママさんで活躍中。



松原ミレイさん
25歳。在日5年。レストランの家族。今、ギターを習っています。

てる。(笑)

— 日本での生活で苦労したことは。

マイル 嫁姑のことね。すごいなあと思ってる。女と女の心でしょう。そしてお互いにお母さんでしょう。仲が悪い。どうして? もしも自分の娘がいじめられたら、お母さん、悲しいでしょう。それ、どうしてわかんないの。でも旦那さんも悪いのよね。平気な顔なのね。それがいやだと思ってる。

テルシラ 私はない。お義母さんいないもの。旦那さん本当に優しいの。何も怒らない。私、いつも怒るけど……。 (爆笑)

— 最後に、今楽しいことは。

マイル 楽しいはいっぱいあるけど、なんか風みたい……来るときは涼しくても、過ぎたらその涼しいも終わり。それが大切じゃないのね、私の場合。旦那さんが一緒に教会へ行く、それが夢なの。その日を待ってる。いつ来るか分からないけど、それが楽しい。一生懸命待ってるわ。

(注)「オイヤウエー」はトンガ語で「あれまあ、驚いた」という意味の感嘆詞です。

女の人生って

こんなもん! 双六

'89年版

今世紀最大の双六ゲーム!!
フツの双六と違ってあと戻りや一つとばしはできません。サイコロを振って出た目があれば、各年代ごとに人生

を進むことができます。目の数が多いほどあなたは新女類!? 全年代をクリアしても何の賞品もありませんが、あなたの健闘と幸運を心より祈ります。

ふりだし



10代



学生時代から花嫁修業を積んできて「結婚するなら天下の公務員!!」と断言する親の言うままに…。「マンガ」で経済・社会からオフィス・ラブまで勉強してまーす。目指す職業は「フリー・アルバイター」。小銭を稼いで海外へ脱出!!一億総タレント時代。18歳でサガンが作家デビューしたのを目標に、椎名桜子に追いつけ追い越せ。

20代



クリスマスケーキまではと、花嫁修業に余念がない。乱発した見合い写真は鳴かず飛ばず。とりあえず、〇し続けています。人生はゲーム。結婚・離婚なんてこだわらない。自分の思うように生きるのが最高!!私の夫は、メンズ・ノンノには程遠いけれど、家事も育児も二人の責任。お互いの時間を大切にして、おしゃれに生きたい。

30代



やさしい夫にかわいい子ども。私ってとっても幸せな女。再就職は、パートがいいわ。何と言っても家事優先。私は子持ちのキャリア・ウーマン。たまには一人でしゃべり食べたい。アグネス子連れ出勤競争に男どもを引きずり込もう。これからは、男の自立がトレンド。今すぐ夫の飼育を始めよう。



50代

子育てはもう終わった。手ぐすねひいて待ちに待ち、次は孫育てに腕まくり。久々の二人だけの生活。まだまだステキな夫と共に、しゃれてお酒を飲みに行きたい。まだまだ私は美しい。やりたい事も山ほどあって、熟年離婚も、ふと気にかかる。私は本物キャリア・ウーマン。勤続30年には、夫も脱帽。若い〇しには負けられない。



60代

亭主を会社から返してもらったけれど、これからの人生。二人の世界をどう生きよう!!孫の子守りなんてしてられない!花咲かせるのはこれからよ。待ってました!退職金。離婚の後、のんびり私の人生よ。リタイアした亭主を置いて、いざ旅立たん。友こそ頼れる人生の道連れ。亭主なんてもういらぬ。

70代
80代



ボケて寝たきりになっても、一分一秒でもこの世にいたい。乗り物の中で若い人がゆずってくれる席に喜んでかける。優雅に感謝の気持ちを述べて。今が一番幸せ。金あり暇あり、夫はあの世、おもしろいおしゃれして六本木にでかけよう。人生の完成期。やり残したこと

はもうないか。寿大学の願書を送り寄せてみる。

40代



夫や子どもに家事を頼らない。私って本当に主婦の鏡ね。やっぱり松田聖子より、結婚引退した山口百恵が私は好きです。良妻賢母こそが私の生き方。でも一回だけの人生。本当にいいの?子育て終っても大丈夫。今から趣味やボランティア。地域運動を踏み台に、いずれはたすきをかけて、市議会選に。

あがり

おめでとう!! ゴールです。どんな人生でしたか?自分の本当の人生を見直して、これからも輝いて生きて下さい。

(スタッフ) 小林弘子・瀬戸美保・小泉美岐子・水谷尚子・金電子

旅は道連れ……

というけれど

個人旅行
VS
団体旅行

秋風が吹きはじめると、おしなべて物をおもわぬ人にさえ、どこか心をつくるもの。そんな一日、旅への誘いが無性に沸き起こってきた。残暑と埃まみれの都会を抜け出し、いざ出発！と威勢よく声は出たものの、にわか結成のE&W第4班のメンバー、早くも喧嘩ごうごう。題して「個人旅行VS団体旅行」これからどう展開するのやら……

*

*

個人旅行派

ガイドブックを知的に使い
こなすってステキだと思う



小学校の通信簿にいつも書かれていた先生の注意は、「お友達の話聞きましよう」だったから、わがままなことではよ。それに退職した人の私の評は「あなたは無鉄砲だから」っていうことで、集団行動に向かないってことだし、私自身、みんなで出掛けるってそんなに好きじゃない。



まあ、スキーに行くなんて時は、とりあえず滑ればいいんだからツアーでもいいけれど、それでも予算が許す限りは、部屋はシングルがよい。お互いを良く知っている友人だつて、親しき仲にも礼儀ありで、わがままだけつていうわけにはいかないから。これが一人の場合、もう完全に自由。疲れて一日中ホテルの中で寝ていてもかまわないし、お金がなければ、朝ごはんも昼ごはんも食べなくていいんだし。

自由行動がほとんどないツアーでNYに行つて5番街を見学したとき、ティファニーで

かわいい指輪を見つけたの。ちょっと値段が高くて悩んでいる間に時間がなくなって買えなかった。結局、そのツアーに行つて一番欲しかったものがその指輪だったから、悔しかった。個人旅行の場合だと、一日中、好きなだけティファニーを行ったり来たりできたし、そんなことがいい思い出になったりするんだよね。

個人旅行派にとって、旅はプランニングから始まります。行きたい場所、見たいものをあれこれ考えながら、時刻表やガイドブックを繰り、地図を眺めまわします。それだけでもすっかり旅に出たような気分を味わうことができる。限られた時間と予算の範囲で、一カ所でも多く行けるように工夫して、思いどおりのプランがたったときの喜びは何ものにも代えがたいもの。旅にはハプニングがつきものですが、そのための下調べも怠けることなくやっておくので、その知識が十分に生かされたとき、個人旅行派はまた独自の旅の楽しさを味わうこととなります。

旅には多くの人との出会いがあります。地元の人が行ったほうがよいという場所は、たいてい行ってみると大正解です。

観光コースに入っていない、そういう場所を道草をくつて、ゆつくり遊んでみる。予定変更も自由自在の個人旅行派、どうやら形勢有利のようだが――。

途中下車

青木 茂美

プラットホームが止まっている電車より短かった。そんな駅がどこか気にかかる。以前に訪れたこともないのに、見覚えがあるような気がする。時間待ちのせいか当分動く気配のない電車の中で、駅の名を口の中で繰り返し、付近の名所案内の立札を読んでみる。

椎名誠の『バタゴニア』に書かれていたエピソードを思い出す。筆者は若かった頃、仕事からみの旅の途中でバスに乗る。そしてどこかの停留所で自分のことを見つめていた女の目に、偶然とはいえない確かな意志の光を見る。ここでバスを降り、女の肩を抱いて見知らぬ街を歩いていたら、途方もない人生があったかもしれないと思ひ、もう一人の自分を渴望しながらバスに乗り続ける――そんな内容だった。

私はこの駅に降りてみることを考える。そのとき、なんのアナウンスもなく電車が動き出し、ホームの赤いカンナを目に残して駅は見えなくなった。帰つていかなければならぬ日常を知つてはいるけれど、いつか本当の途中下車ができるかもしれない。



団体旅行派

プロがたてたプランだから、
知識と経験がまつてる



どっちがいいかと訊かれたら、だいたい人は、自由がある個人旅行がいいわよと答えるでしょ。時間が決まっていなから自由にもまれるし、それに、バックで行つてお決まりの観光コースだけなんて、面白くもなんともないじゃないって。

しかし、果たして本当にそうなのだろうか。自分たちで計画をたてて思いどおりにまわるというのは、一見、とても簡単なように思えるが、よほど念入りな下調べをした上で計画をたてなかつたら、面白くまわれるはずがない。その点団体旅行なら、旅行のプロが計画を立てているのだから、安心してまわる事ができるし、宿泊、列車の用意も万全である。それに、お決まりの観光コースなどといったも、結局は土地の名物なんて大体決まっているから、そうそうオリジナルの観光名所が見つかると思えない。

ツアーを賢く使わない手はないわよ。団体旅行は、とかくスケジュールを決められがちだと思ひ込む人が多いけど、それは旅行社まかせにするからよ。行き先だけ決めてお金を払えばそれで済むものではない。ツアーの利

旅の便利グッズ

- ・パンツのゴム 笑いすぎて切れても山の中にはありません。
- ・毛抜き ムダ毛の処理に。何かと便利。
- ・体を洗うスポンジ 旅館やホテルはタオルだけです。
- ・クリヤーケース ファスナー付きの透明ケース。大事なものの収納に。
- ・ウェットティッシュ ポケットサイズのもののが便利。
- ・計算機(電卓) 割勘の計算に。また無駄な出費がないかチェック。

徹底比較 萩・津和野

3日間 プラス 5万円をどう使う

旅行の楽しみ方、ここが違う

さて、もっと具体的に比較してみるにはどうしたらいいか？ そこで考えだしたのが次の条件。①5万円以内、②三日間、③萩・津和野。この三つの条件で、両派にどんな違いがでてくるのか、検討してみることにした。果たして、勝敗はどちらに?!

どこまで目的にこだわりたい 私だけの萩・津和野

萩の町をゆっくりと見たい、そして秋芳洞や津和野にも足をのびたいという、好奇心旺盛の個人旅行派なら、たとえばこんなプランをたてる。

フリータイム	
①秋芳洞・秋吉台探訪	4h
②萩市内散策	14h
③津和野市内散策	5h
マネー	
交通費	35,800円
入館料	3,650円
レンタサイクル	1,500円
宿泊(民宿2泊)	9,000円
計	49,950円
(ただし、昼食費含まず)	

- ポイント
- ・「フリーきっぷ」だからJRもバスも乗降自由
 - ・市内めぐりは自転車で
 - ・フリータイムがたっぷり

まず、バスもJRも乗り放題の「フリーきっぷ」を使う。何より経済的だし、予定変更もしやすい。往復の新幹線は時間がかかるが、個人派はそれも旅の実感を味わうのに格好だと思ふ。萩・津和野の市内めぐりは、レンタサイクルを使う。城下町独特の見通しのきかない道を体験するのに都合がいい。

第一日の目的は、秋芳洞・秋吉台。四時間ほど過ごし、萩へ。宿泊先の民宿で、市内めぐりのことを聞いておく。

第二日は、終日市内めぐりに費やす。陶芸会館、美術館を見て、窯元で萩焼にも挑戦。藍場川付近、大照院などはツアーでは行かない場所。今日も萩に宿泊だから時間を気にせずに気に入った場所でゆっくり過ごせる。

第三日は、津和野。駆け足で回るも、数カ所ゆっくり回るも気分次第。津和野からは、SLやまぐち号に乗って、旅の余韻を楽しみながら帰路に着く。

面倒なことはすべて代理店まかせ。お金も時間も賢く使える団体旅行

どうせ同じ旅行に行くのだったら、安い料金で、能率よく、しかも最高のサービスで、と思うのが人情というもの。だけど、きょうび、交通運賃は上がる一方だし、宿の手配や切符を取るのだから並大抵のことではない。

そんな、都合のいい旅行なんてあるものか、と、すっかり諦めていた、そのアナタ！あるんです、その夢のような旅行が。なんて少し大げさだけれど、そんな、私たちのがままな願いを叶えてくれるのが、そう、旅行代理店なのです。

たとえば、今回私たちが見つけてきたこのコース、今、若いギャルに人気の、しっとり落ちついた情緒の味わえる萩・津和野三日間が、なんと、4万9800円から行けてしまうなんて、信じられますか？ しかも、往復飛行機利用で！ それもJAL。もちろん、食

事付き。ホテルだって超一流。親切な添乗員さんまで付いて、今時、4万9800円なんて、本当に団体旅行だからできるようなもので、これだけの値段で、個人で行くとしたら、東京ー福岡を飛行機で往復するだけで精一杯。とても旅行どころではないはず。さらにこの旅行に参加した人には、代理店から萩焼きの湯のみ茶碗、津和野の和紙人形、厳島の開運しゃもじなどのうれしいおまけつき。というわけで、お金も時間も賢く使うには、やっぱり団体旅行が一番！ という結果になった。

個人派の人たちも、やせがまんせずに、代理店のお世話になっほうがよっぽどいいと思ふわ。

* * *

個人旅行と団体旅行を、みんな切めて比べてみたんだと思う。それ以前は自分の好みに合わせて比較などしないで、個人旅行か団体旅行か決めてしまっていたし、頭から団体旅行は苦手という人もいたはず。でも今回比べてみて、もっと柔軟に考えられそうって思った人が多いみたい。

団体旅行は確かに自分たちで好きなように行動する時間は少なくなっちゃうけれど、個人旅行ではそれだけで予算オーバーする飛行機で目的地まで行けてしまって、電車で行くのと同じ予算でとってもリッチな旅行で、思わずみんなが「個人旅行じゃ、エアチケット



萩・津和野
魅惑の(2泊3日)
秋吉台⇨壇ノ浦
お1人様
¥49,800より
しかも!!
3大プレゼント付き

代も出ない!」と驚いてしまふほどだもの。私たちの班は個人旅行の方が好きという人が多かったの。その理由はやっぱり旅行は日常のタイムスケジュールから逃れて、何か違うことが自分の中に起る、そんなことを楽しみにしているから、みんなと同じではな

私たちが班は個人旅行の方が好きという人が多かったの。その理由はやっぱり旅行は日常のタイムスケジュールから逃れて、何か違うことが自分の中に起る、そんなことを楽しみにしているから、みんなと同じではな

く、さらに自由になりたいと思っていたからです。でも、ようは自分の旅行のどこにポイントをおくかがはっきりしていること、それに合った旅行方法を上手に見つけること。これが素敵な旅行をするのに大切なことなのです。



あなたはどのタイプ? それの通りと思つたらYesです。

トラベラー・チェック!

- 1.西村京太郎のトラベルミステリーを読んで、時刻表のトリックがすべてわかる。
- 2.私は宴会の主役です。
- 3.今まで目覚まし時計に、お世話になったことがない。
- 4.国内の最低5カ所の観光地の名産を、そらで言うことができる。
- 5.たとえ一人きりでも、一流レストランでフルコースを食べることができる。
- 6.アダルトビデオを見るために、旅館につくと小銭が気になる。
- 7.お金がない時、百円のパンを一つ食べてもみじめとは思わない。
- 8.旅行日程を記憶することに関しては、自信がある。
- 9.他人が食べているメニューが、気にならない。
- 10.旅行中の写真は、なぜか知らない人と一緒に写っていることが多い。

あなたのタイプはこれ! Yes1つ1点です。

- 0~2点 TVの旅行シリーズで我慢しましょう。
- 3~5点 町内一周めぐりが最適です。
- 6~8点 たまには1人で旅を試みましょう。一人旅の良さがわかるはずです。
- 9~10点 あなたはもう怖いものなし。国内だろうが海外だろうがどこへでも行って下さい。

OL100人が選んだ旅の人気お菓子

- ベスト5
- ・ポテトチップス
 - ・コアラのマーチ
 - ・チョコポッキー
 - ・ホールズ
 - ・酔いか



スタッフ 渡辺・森竹・滝口・高野・櫛田・白井・朝比奈・青木・安田

編集後記

＊ものを書きたいとは何やら恥ずかしく、開講式の恒例の場で、初めて夢を言葉にした。さて集大成の実習誌やいかに？（青木茂美）＊一冊の本をつくるという「共同作業」。大きな街の片隅で、ドライな言葉を吐き、個人主義に徹する人に良く効く薬。（今泉直子）＊実習誌の作成前は、二次会に忙しく、実習誌を作成し始めてからは原稿に追われ、ああ今日も、終電に滑り込みだァ。（日井宏子）＊役立たずで申し訳ありません。自分の力不足を思い知らされたり、みんなの文章力に驚いたり。よい経験になりました。（加藤美和）＊編集の世界を少しは知ることができました。TAKE A "D" TRAIN TO THE PEN, S WORLD!（加藤宮子）＊編集は、センスとチームワークで勝負。何が身につけられなかったのか、見極めてから再スタートを切りたい。（きむぶじゃ）＊どうなることかと思いましたが、なかなか中身の濃い実習誌が出来たナ、と自負しております。有難うござんす！（櫛田和美）＊いろんな価値観が、とても新鮮だった。講義も実習も二次会も、良い勉強になった。先生に感謝、友人にありがとう。（工藤晃子）＊机の上で学ぶことはもちろん、それよりもアフターイベントでひざを合わせてのお勉強が実になってたりなんかして？（小泉美岐子）＊今、世の中を変えているのは、女たち！

若い人といっしょに新人類の様相を考えた。たのしい学びの半年間でした。（小林弘子）＊才能なんてないけれど、誰にも取柄はあるものさ。考えてばかりいるよりも実行。それで出席、皆勤賞女。万歳！（斎藤富美代）＊書く書く書く書く休む遊ぶ書く書く寝る食べる書く書く書く書くときどき描くー以上が私がやらなきゃいけない事。（佐久間明美）＊バラエティーに富んだ講義と共に、受講して一番の収穫は、今の自分のスタンスが僅かながらも見えてきたことです。（佐藤久美）＊漢和辞典で祐を調べよ。祐＝祐。例として祐筆↓昔、文書をつかさどった職。フフフ、こういう運命の私のさっ。（佐藤祐美子）＊春・夏・秋と季節のように、私の心は揺れました。多くの生き方に触れて、新たなスタートラインに立っています。（品田みづほ）＊これで良いのだろうか？ なんて、ふと思ったりして……。楽しいこととして、ちょっと活字になって、これでイイカ！（せとみほ）＊若い人達との実習誌制作は刺激的だった。なんだかいつもせわしなくて、もうすこし早目に作業にかかりたかった。（高野いつみ）＊わたしって、なんて優等生なんだろう？と勝手に思い込みながらの半年。ハイジ少女の生きがい二次会でした。（滝口美知子）＊WALK DON, T RUN ライターへの道もゆっくると、けれど前へ前へと歩を進めたい。決意の秋です。（つちやひろこ）＊学ぶことの楽しさ……再確認。才能のなさも……再確認。世のエディター＆ライターに

尊敬の念をもって出直します。（手塚節子）＊エディターになるための一歩はこの教室。そして第二步は、みなさんにめぐり会えたこと。そして……と言えたいいな。（富樫敬子）＊物を書くことを通して、自分を知ったような気がします。いつの日か、気持の良い文章が書けたら、と夢んでいます。（星野俊江）＊半年でめくるめく才能の開花がもちろん！なかつたけど……。なんの人生八十年、勝負はこれから。皆様うごご期待！（三浦由佳子）＊私、これが終わったら、ビール飲みながら双六して遊ぼうっ！ スーパー姉ちゃんを指して、丁か半か、入ります！（水谷尚子）＊「萩」と「萩」とは異なる文字だったんですよ。でも、その違いに気づかなかったのは、私だけではないはず。（森竹奈津子）＊インタビューの後、トンガの二人とショッピング。そーいやあ教室も課外授業が楽し。時間外の女と呼んでください。（山口美佳）＊これから始まる編集者生活（？）の第一弾出会う人は、ヘビメタファンの4人。知らない世界をのぞき見るって快感！（山田真理）＊原稿を書く、活字になる、この魅力は辛口の白ワインのように私を酔わせている。皆で作らあげた六ページに、乾杯！（吉田真澄）＊いろんな人に出会えた六カ月。たるみ気味の精神に一喝されて、明日からまたGOING MY WAY頑張ります。（吉本容子）＊いつも笑い声の絶えない、騒々しい班だったけど、けっこうまとまってたし楽しかったよネ！ みんなアリガトッ！（渡辺葉子）

講師のいしば

伝えたいことを発見する大切さ

奥田史郎

みんなの書いたものを見ると、どうもまだ「うちわ」向けから抜け出ていないようだ。繰り返し「読者に伝わるように書く」といっていることは、言い換えれば、読者をどのように考えるかということでもある。自分が読者のときを考えてみればわかるように、読者というものは決して親切なものではない。気まぐれで、いじわるで、多分にもよりの分りの悪い面すらある。そんな読者の多数に、できるだけ誤解なく伝えるには、主題に無関係なつぶやきは書かないこと。少々の文章の綾や手練手管なら使わないほうがいい。書き手がそれ相応に特異で「いじわる」な眼をもたないと、自分らしさがどこにも出てこない文章になる。誤解ないように念を押すが、眼だけがいじわるなのであって、根性がいじわるのではない。目をあけてよく見る。目を閉じてもおよく見る。そうすれば、真に書きたいことがやがて見えてくる。伝えたいことが的確につかめれば、文章表現は自然についてくる。そこで初めて「うちわ」でない「扇風機」らしい風が少しばかり吹いてくる。

ひらけ、仕事の花よ

河原 淳

三崎町の労音会館にあった教室が道玄坂へ引っ越しをした。前期では労音的うす暗さが漂っていたのが、渋谷的明るさに変わる。世に暗い文章もあれば、明るい文章もある。文章は電球に非ず。マスコミは偏見も渦巻く海で、とかく暗い文章を拒む。ひょっとするとマスコミ電球は40Wくらいかも。明るくてもだめな文章がある。暗くても良い文章が存在する。明るくても読む人の心に灯りがともらなければ、だめな文章。暗くても胸にひびけば、良い文章だ。ぼくが編集している『東京新聞』サンデー版『りびんぐらんど』で外山滋比古氏に、文章を書く目をお願いしている。エディターにもライターにも、社会や人間や風俗をみつめる目が欠かせない。目がしっかりしていると、良い企画や文章が生まれる。確かな目を育てるために、旅、散歩、耳学問をしよう。本をもっと読まなければ、すぐれたクリエーターになれない。月に少なくとも10冊の本を読みたまえ。これができるれば、目はいくらか澄み、マスコミでいい仕事の花がひらくであろう。

価値ある日々を……

加藤文治

（放作協事業委員）

猿にらつきよを投げてやると、彼はその皮を一枚、一枚、むいては捨て、むいては捨て、ついに何物も見出し得ないで、真赤になって怒るといふ。実現すべき頂点がある未来に定めて、目的論的に生活の一切を規定するのは、皮をむいていって、うまい果肉を探し当てようとする猿の考え方に通じるところの人生観ではないだろうか。「今日を明日の手段とするのは卑しい。少年期は青年期の準備ではない。それぞれがそれ自身の独立価値をもつ自己目的的存在でなければならぬ」英国の劇作家クリストファー・フライの言葉である。エディターに、またライターに目標を置くのはいい。だが、大切なのはいかに価値のある一日一日を送るかということだ。瞬く間に過ぎてしまった半年間、熱心に教室へ通ってきた生徒諸君は、きつと充実した毎日が送れたことと思う。教室を卒業してからも、いっそう価値ある日々を過ごして欲しい。